

# 長畝ふるさと通信

【2017年12月号】

## ■ あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。



12月31日、長畝氣比神社では大晦日の「除夜祭」が執り行われました。神殿をきれいに掃除し、お供えを並べ、宮司さんから年越しの神事が厳かに進められました。「ゆく年の無事に感謝し、来る年の安全を祈る」ということだそうです…玉串を奉納すると何となく気持ちが引き締まる思いになります。「日本人だなあ」と実感する瞬間です。近年ではSNSとかで「アケオメ、コトヨロ」の8文字で済ませる悪習が広がっているようで…お正月も時代とともに様変わりしていきます。「お米事情」も様変わりするのは当然です。

「新年に信念ブレず、臨機応変」…何だかよくわかりませんが、今年の一句です…

## ■ 長畝「生きもの図鑑」



田植えの時期になるとツバメがやってきて、納屋に巣をつくります。我が家には毎年やってくるので、前年の巣がそのまま受け継がれているようですが…。「ツバメが巣をつくるとその家は栄える」などと言われますが、ご近所に特に栄えた家はありません。ツバメたちにとって居心地の良いだけの環境なのだと思います。最近では同じ巣で2回の巣立ちも珍しくなくなりました。ツバメたちにとっての「北の宿」です。

8月初旬、出穂期になると田んぼや水路などいたるところに巣をつくるのがナガコガネグモです。丸い網を張り、その中心で頭を下にして8本の足を「エックス型」に広げて獲物を待ちます。斑点米などの被害粒の原因となるカメムシなども食べてくれるので、生産者としてはありがたい存在ですが、世の中的には嫌われ者扱いされているようです。人も昆虫も外見だけで判断してはいけません！





暑い夏の日、オニヤンマを見かけます。日本最大のトンボと言われていますが、水のきれいな小川の周辺や森林の木陰など、日本の原風景と言われるような地域でしか見ることができなくなっているそうです。何年か前の夏の朝、見たこともない大きなヤゴからオニヤンマが脱皮するシーンに遭遇しました。背中

が割れ、中から出てきたそのお姿は正にトンボの王様的なオーラをまとっておりました。息をのんでバージンフライの瞬間を待ちましたが、待てど暮らせど飛ぶ気配はなく根負けして帰った記憶があります。

4月15日、早朝。祭りに向かう青年会の後ろ姿です。神前でお祓いをし、伝統芸能「鬼太鼓」を一日かけて集落に門付けして回ります。日常ではあまり接点がありませんが、この日は無礼講でどこの家にあがって飲もうが騒ごうが寝ようが(我々の時代から比べれば



おとなしいもんですけど・・・)お構いなしです。年に一度の集落全体のコミュニケーションの場かもしれない。彼らと酒を呑んでいると「長畝愛」を感じます。生きものたちに住み心地の良い環境は人間にとっても住み心地が良い環境なのです。



トキ認証米10作目を記念に作った田んぼアートです。すべてはトキの野生復帰から始まったお米づくりです。次の10年はどんな「絵」を描いていけばいいんでしょうか。ふるさとを守りたい、でも外部環境の変化についていけないでは見通しは持てません。

新年を迎え、10年後を描ける年にしたいと思います。

**「今年もおかわりは自由です」**